

令和 6（2024）年度 学校評価報告書

令和 7（2025）年 7 月

成城学園学校評価委員会

令和 6（2024）年度学校評価報告について

学園長 戸部順一

平成 19（2007）年の学校教育法改正によって、高等学校以下の学校（幼稚園を含む）に対して学校評価の実施が義務付けられました。これを受けて、成城学園では、幼稚園、初等学校、中学校高等学校の各校において、平成 20（2008）年度から当該活動に取り組んでまいりました。平成 20 年度から平成 26（2014）年度に至る 7 年間は、毎年、学校評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、発刊しておりました。その後、ある程度の期間をあけて評価を行った方が、各校の抱える問題をより明確に把握できるのではとの考えに基づき、毎年の実施は見送られることになりましたが、その方針転換にコロナ禍が重なり、学校評価の実施及び評価結果の公表は平成 29（2017）年度から 5 年間、中断を余儀なくされました。しかし、令和 4（2022）年度からは、各校は保護者アンケートの回答を参考にしながら、教育活動及びその他の学校運営に関する点検を行い、点検結果を一つにまとめた学校評価報告の作成を再開しています。評価結果をより多くの方々にご覧いただくとうと、令和 4 年度以降、公表はホームページ上で行うことにしております。

さて、成城学園は平成 29 年に創立 100 周年を迎えることを契機に、平成 26 年度に「成城学園第 2 世紀プラン」と銘打った中期計画を策定いたしました。中期計画とは、一定の期間を設け、その期間の年度ごとの事業計画の達成を積み上げながら、計画の中に掲げたビジョンの実現を目指す活動のことを言い、令和 6 年度からは第 3 次中期計画＝成城学園第 2 世紀プラン 2030 が開始されたところです。一期間は令和 6 年度から令和 11（2029）年度の 6 年間としております。第 3 次中期計画のビジョンとして掲げている標語は「しなやかな知性・挑戦する意欲・共感する心をいっそう大切にする教育」であり、これは成城学園創立者の澤柳政太郎博士が唱えた「個性尊重の教育」の進化・深化した形を、現代的に表現したものです。「個性尊重の教育」の深化とは、園児・児童・生徒・学生諸君の持つ資質を十分に開花させる教育に加えて、他者の個性を尊重する姿勢を学ぶ教育へと拡張することを意味し、進化とは、100 年前にはなかった授業（例えば、中学校高等学校で行われている課題解決型授業や、幼稚園、初等学校でも展開されている国際教育―他者理解のための教育です―などが挙げられます）による教育を意味します。深化の目玉としている他者との協働を大切にする心の育成は、いつの時代であれ、社会の健全性を保つためには必須であり、学園はそういう心を持つ若者を育てることを第 3 次中期計画の達成目標といたしました。

学園が掲げる中期計画のビジョンを根基として、各校はそれぞれの中期計画を策定しますが、そこには各校の「中期計画の目標」⇒目標に至るための「取り組み」⇒取り組みの具体策と言うべき年度ごとの「事業計画」が記載されています（中期計画、事業計画はホームページ上で公開されておりますから、是非ともお目通しを願います）。単年度の事業計画がどの程度達成されたかを評価し、評価結果を報告するのが事業報告です。よって、

学校評価報告と事業報告には重なる部分も多く、学校評価報告と合わせて事業報告をお読みいただければ、各校の教育活動等をより深く理解できるかと思われますので、こちらにも、お目通しを願うところです（令和 6 年度事業報告もホームページ上で公開されています）。

学校評価報告の作成には、各校が行う学校評価のためのガイドラインの策定及び評価結果の取りまとめを任務とする学校評価委員会¹があり、そのもとに、学校評価委員会の定めたガイドラインに即して、学校評価を行う自己評価実施委員会²が各学校に置かれています。自己評価実施委員会は保護者アンケート³の実施とアンケート結果の分析による自己評価を行います。自己評価実施委員会が行った自己評価と改善への取り組み状況をチェックする組織として学校関係者評価委員会⁴が各校に設けられています。学校関係者評価委員会の特筆すべきところは、自己評価を行った当該学校ではなく、接続学校の教員と当該学校の保護者を委員としていることです。この委員構成によって、自己評価実施委員会による自己評価に対し、接続校の教員と保護者からの再評価が可能になっております。

学校評価報告は自己評価実施委員会によって実施された保護者アンケートの結果、その結果に基づく自己評価、及び保護者アンケートと自己評価に対する学校関係者評価委員会の報告を各校ごとにまとめた体裁になっております。保護者アンケートの質問項目は各校共通のものと各校独自の項目からできており、共通項目と独自項目を合わせて、各校の教育活動が何に重点を置いて行われているのかが見えてくるように作られています。またアンケート結果からは各校の長所、短所が鮮明に浮き上がってくるようにも思われ、それを真摯に受け止めながら、良い点はいっそう伸ばし、問題点とされることには速やかに対処法を講じ、その解消に努めねばならぬことを教えてください。「この先も変わることのない成城学園と、新たなことにもチャレンジしていく成城学園にも期待する」という委員からのコメントは、「長所は伸ばせ、短所は直ちに是正しろ」という励ましの言葉であると捉え、このコメントを決して疎かにはしないことを宣誓し、令和 6 年度学校評価報告の序を結びたいと思います。

¹ 学園長（委員長）、法人事務局長、中学校高等学校校長、初等学校校長、幼稚園園長及び各学校から選任された者 1 名を委員とする。

² 各学校長を委員長として、学校長が指名した者を委員とする。

³ 自己評価を行う上で、参考とすべき資料として、保護者を対象として実施される学校目標（各校において年度ごとに設定されるもので、中期計画に記載される事業計画のうちの重点事項及び保護者アンケートの意見・要望のうち、改善を要することと判断した事項を内容とする）に関するアンケート調査。

⁴ 各学校長、接続学校（例えば初等学校の接続校とは幼稚園と中学校をさします）から選

任された者、父母の会部会長、学校長より指名された保護者を委員とする。委員会の委員長は学校長を除いた委員の互選によって決まる。

2024年度 学校評価アンケート 中学校高等学校 自己評価について

●はじめに

第三次中期事業計画の初年度にあたり、2024年度は、これまで開拓してきた様々な取組をより深化させていくことを軸として、様々な教育活動を展開してきた。とくに国際交流に関する企画については、新規のものも含めて、単に訪れる、体験するといった枠を超えて、「探究する」という方向性が充実してきたと感じられる。その一方で、生徒を取り巻く問題は益々複雑化しており、たとえば、生徒間のトラブルには必ずと言っていいほどSNSが絡んでなかなか解決の糸口が見いだせないこともあった。こうした状況を乗り越えるためには、やはり地道な「見守り」が欠かせないものであり、今年度は、「人と関わりアンケート」の実施など一歩進めた形の対応を進めてきた。そして、生徒の成長を見守るという点では、基本を見直した1年間でもあった。探究活動を深めつつ、見守りといった生徒指導の原点について考え直してきた1年間に対する学校評価アンケートとなっている。

●学校目標（第三次中期計画）

（I）教育活動

A. 国際教育

《中期計画の目標》

「異なる文化や価値観」を理解しそれに共感すると同時に、「自国の文化や価値観」を伝えていくこともできる知識・教養を身につけさせる教育プログラムを、様々な教科の横断的な学びから発展させていく。その際、生徒が視野を広げられるような体験を有機的に繋ぎながら積み重ね、それらの中で、国際的なコミュニケーションを可能にするための言語運用能力の向上をはかる。特に英語については、英語検定試験等を活用し各学年で設定した到達目標に向けた学習活動を展開する。

《中期計画の取組》

- ①短期留学、長期留学、留学生との交流などの国際交流プログラムの充実
- ②歴史（日本史、世界史）、経済、地理、環境教育、人権教育の視点を通じて他者理解を学ぶ
- ③種々の検定試験等の有効活用、e-learning教材の活用など、語学教育の深化
- ④国際教育（海外の大学進学）を意識した進路指導の充実

B. 理数系教育

《中期計画の目標》

生徒が課題を発見・分析・解決できる、高い問題解決能力を育成するために、これまでの授業・学校行事を、「探究」の視点から再構築していく。特に、自然観察や科学実験、データ分析、モデル化等、より適切なアセスメントを行う体制をつくり、生徒の理解力に応じた学習支援体制を構築していく。

《中期計画の取組》

- ①各学年の学校行事を展開する中での、新たな視点を取り入れた課題解決型の教育活動（PBL）
- ②「サイエンス教室」の継続的な実施など、理数系への興味関心を深めるためのプログラムの開発
- ③理科実験室の活用、基礎教育（定着）の充実、ICT機器を活用した発問や対話を重視した学習活動、デジタル・

シティズンシップ教育の展開など、日常的な学習活動において、論理的な思考力を高める施策

C. 情操・教養教育

《中期計画の目標》

学校行事や部活動等を中心とした、様々な表現活動の場を、従来の枠にとらわれずに広げ充実させていく。

《中期計画の取組》

- ①国際教育の枠組みの中で多様性理解に繋がる情操・教養活動の展開
- ②日本語表現力を磨く活動の充実
- ③芸術系科目を基礎とした、共感を大切にした活動の充実
- ④学校行事を通じた、異学年の交流とリーダーシップ、フォロアーシップを高める活動の深化
- ⑤保護者と共に考えるデジタル・シティズンシップ教育の拡充

D. その他の重点分野

《中期計画の目標》

本学園独自の「SAIL (SEIJO Academic Interactive Learning)」プログラムを 2024 年度より本格的に起動させ、異年齢により構成されたコミュニティの中で様々な思考法を学び、協働しながら課題解決する経験を重ねていく。さらに、経験による硬直化を防ぎつつ「未知」に挑むスキル（アンラーニング）を持ち成長しつづける生徒が増え、2030 年には自主的な活動として多くの「探究するコミュニティ」が学園内に創られるようにする。

《中期計画の取組》

①大学との連携

ロジカルシンキングやデザイン思考など、課題解決の方法としての思考法について学ぶ。この学習体験により、体系だった学びで得た知識や思考力が成城大学または他大学での研究活動、さらにその後の人生におけるアンラーニングにつながることを強く意識させ、中高大の学びのロードマップを描けるようにする。この学習経験によって得たことをアウトプットし、次なる課題を創出する。

②社会に目を向けた活動

様々な企業、団体での取り組みにふれる機会を持つ。その経験により社会に出てからの課題解決のイメージをつかみ、必要なスキルは何かを考える。また、多様な文化や背景を持つ人たちも含め、他者の視点を理解し、共感する力を育む。この学習経験によって得たことをアウトプットし、個人と社会との関係について次なる課題を創出する。

③学びの原点の探究

「①②によって得た力を成城学園という学びの場にどう還元していくか」という問いのもと、協働しながら課題解決に向けたアイデア創発を行い、このプログラムを終了した後も自主的に探究するチームが創られるよう学習環境を調える。また、幼稚園や初等学校との交流を通して「学びの原点とは何か」を考える機会を持つ。

(II) 研究活動

《中期計画の目標》

日々の授業の中で、生徒の自主性や創造性を引き出すような授業運営・評価方法についての多様な情報を集め、それらについて研究・実践するための研修会・研究会を実施していく。とくに、教員同士が情報交換やアイデアの共有を行える場を設け、教育の質を向上させる取り組みを進めていく。さらに、社会との連携を強め、生徒の発想の柔軟性を高めるための支援体制を整えていく。さらに、教員の仕事について、効率化、環境整備等についても、リサーチを進めていく。

《中期計画の取組》

- ①教育効果をより高めるための ICT 機器利用に関する研究

- ②学び方、学ばせ方に関する教員間の学び合いの充実
- ③多様な観点からの評価方法を取り入れていくための継続的な研究
- ④多様な評価方法に対応できる、評価システム、教務処理システム（PC 環境）に関する研究
- ⑤課外教室等の学校行事について、「探究」的な活動を高めるための研究
- ⑥豊かな経験をもつ社会人との出会いを演出し、生徒との対話の機会を増やしていくための活動
- ⑦はたらきかた改革を見据えた効率的で効果的な教材作成に関する研究
- ⑧将来的な部活動のあり方に関して考えていくための調査活動

（Ⅲ）社会連携活動

《中期計画の目標》

地域との連携を深めていくため、これまで続けてきた各種連携活動の内容を深めていく。さらに、中高協会第8支部、もしくは、5 学園との交流を通して、多くの私立学校、さらに公立学校との交流を拡充していく。

《中期計画の取組》

- ①BLS・水辺の安全講習を通した「いのちの教育」の普及活動など、学内スキルを活用した活動の充実
- ②学内施設を利用した地域・他校との交流
- ③学内自然環境（100 年の森、杉の森）の活用を通じた、地域との交流活動の展開
- ④ボランティア活動等の場を広げ、人とのふれ合いを大切にする活動の展開

（Ⅳ）教育環境整備

《中期計画の目標》

多様なバックグラウンドを持つ生徒が協力し円滑な協働作業ができるよう、グループ学習スペース、発表スペースの充実を図り、ICT 機器等のコラボレーションツールを活用できるようにしていく。また、災害時の備えを含め、生徒の安全や健康への配慮を広い視点で考え改善点を見出していく。

《中期計画の取組》

- ①コリドースペース、カフェテリア等の活用について、生徒の意見をとり入れつつ検討
- ②現「PC 教室」の新展開を考えていくための情報収集
- ③生徒のケガ、体調管理等に関連する学校環境・設備の影響についての調査と改善
- ④科学実験を中心とした、生徒の探究的な取り組みを発展させるための施設設備の拡充
- ⑤芸術系科目を通した表現力を高めるため活動を支える施設・設備の在り方についての研究
- ⑥技術・家庭科を中心に「作る」ことを豊かにする施設の在り方についての研究

●学校評価アンケート

I 実施期間：2025 年 1 月 14 日～1 月 29 日

II 対象：中学校高等学校 全保護者 「ウェブでお知らせ」にて配信

III アンケート項目（中学校高等学校共通）

下の Q1～Q21 について、調査対象者が以下の 4 段階で回答する。

①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④思わない ⑤わからない
集計上、①を 4 点 ②を 3 点 ③を 2 点 ④を 1 点とし、⑤の数は除いて、平均値を求めた。

- Q1 特色ある教育活動が行われている。
- Q2 学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。
- Q3 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。
- Q4 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。
- Q5 学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。
- Q6 学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。
- Q7 お子さんの心身の健康について、気軽に相談できる窓口（養護教諭、カウンセラー等）がある。
- Q8 感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。
- Q9 お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。
- Q10 上位学校（中学校→高等学校、高等学校→大学）に関する情報提供は適切にされている。
- Q11 学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。
- Q12 学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。
- Q13 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。
- Q14 学校は、日々の教育活動で I C T 機器を積極的に利用し、お子さんはそれらを活用している。
- Q15 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。
- Q16 「進路学習」「道徳」「高 2・3 セミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。
- Q17 学校では、「英検」に関して、中 3 までに準 2 級、高 2 までに 2 級を取得することに向けての学習活動が行われている。
- Q18 学校は、英語 4 技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。
- Q19 学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。
- Q20 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。
- Q21 お子さんが部活動に参加している方へ：学校では、クラブ活動が適切に運営されている。
(参加されていない場合はわからないとしてください)

Q22 本学園の良さを学外の人に伝えたい。

IV 集計結果について

1) 回答数（カッコ内は在籍者数）

高 1	196	(287)	高 2	194	(269)	高 3	162	(276)
中 1	200	(252)	中 2	169	(241)	中 3	154	(234)
所属学年不明※ 2								
高等学校	552	(832)	中学校	523	(727)	全体	1075	(1559)

※学年とクラス名が一致しない回答 2 名分は、除外して集計した。

昨年度の回答数（957（1550））に比べると、回答数が増加した。

2) 集計結果

	アンケート項目	全体	高校	高1年	高2年	高3年	中学	中1年	中2年	中3年
1	特色ある教育活動が行われている。	3.20	3.18	3.18	3.26	3.09	3.21	3.36	3.17	3.09
2	学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。	3.16	3.20	3.20	3.28	3.09	3.11	3.19	3.08	3.07
3	お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。	3.52	3.57	3.59	3.49	3.64	3.46	3.45	3.49	3.46
4	学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。	3.48	3.45	3.44	3.47	3.43	3.52	3.49	3.46	3.62
5	学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。	3.19	3.13	3.21	3.15	3.03	3.24	3.28	3.18	3.27
6	学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。	3.33	3.34	3.35	3.41	3.23	3.33	3.34	3.32	3.32
7	お子さんの心身の健康について、気軽に相談できる窓口（養護教諭、カウンセラー等）がある。	3.02	3.02	3.05	3.04	2.96	3.02	3.10	2.93	3.04
8	感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。	3.09	3.13	3.06	3.16	3.16	3.06	3.16	3.00	3.00
9	お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。	3.60	3.61	3.64	3.59	3.61	3.58	3.53	3.58	3.64
10	上位学校（中学校→高等学校、高等学校→大学）に関する情報提供は適切にされている。	3.21	3.57	3.59	3.49	3.64	2.76	3.02	2.52	2.80
11	学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。	2.98	3.03	3.04	3.15	2.88	2.92	3.16	2.73	2.85

	アンケート項目	全体	高校	高1年	高2年	高3年	中学	中1年	中2年	中3年
12	学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。	3.03	3.09	3.07	3.21	2.99	2.96	3.16	2.80	2.93
13	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。	2.76	2.80	2.71	2.86	2.83	2.71	3.06	2.51	2.59
14	学校は、日々の教育活動でＩＣＴ機器を積極的に利用し、お子さんはそれらを活用している。	3.01	3.06	3.01	3.14	3.03	2.95	3.07	2.90	2.87
15	学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。	2.71	2.78	2.73	2.84	2.77	2.63	3.00	2.48	2.45
16	「進路学習」「道徳」「高2・3ゼミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。	2.90	3.01	2.92	3.07	3.04	2.73	2.90	2.56	2.71
17	学校では、「英検」に関して、中3までに準2級、高2までに2級を取得することに向けての学習活動が行われている。	2.93	2.93	2.83	3.03	2.92	2.92	3.05	2.98	2.74
18	学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。	2.88	2.86	2.81	2.96	2.79	2.90	3.02	2.87	2.83
19	学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。	2.67	2.67	2.61	2.72	2.67	2.68	2.98	2.58	2.50
20	学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	3.52	3.50	3.53	3.55	3.42	3.53	3.50	3.54	3.56
21	お子さんが部活動に参加している方へ：学校では、クラブ活動が適切に運営されている。（参加されていない場合はわからないとしてください）	3.31	3.28	3.31	3.22	3.31	3.34	3.37	3.31	3.33
22	本学園の良さを学外の人に伝えたい。	3.27	3.28	3.24	3.44	3.16	3.25	3.33	3.23	3.17

3) 集計結果の分析

3-1) 相対的に評価が高い設問について（上位5項目）

- Q9 お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。3.60
Q3 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。 3.52
Q20 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。3.52
Q4 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。3.48
Q6 学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。3.33

これら高い評価を得た設問上位5つは、昨年とまったく同じものとなった。これは、様々な機会に保護者の皆様に、生徒が活躍する姿を直接見ていただくことができており、また、こうした場に積極的に保護者の方々が参加していただけていることがうかがえる結果となっている。また、Q20（施設設備）についても、高い評価が得られたのは、実際に学校に来ていただき、直に見ていただける機会が多くあったことと結びついていると考えられる。さらに、Q3（友達関係）が良好であることについても、昨年に続き非常にうれしいことであり、今後も、今年度より取り組みを始めた「人と関わりアンケート」などの下支えとなる仕組みとも連動させる形で、学校生活の基本となる友人関係の基礎をうまく構築できるようにしていきたい。

3-2) 相対的に評価が低い設問について（下位5項目）

- Q19 学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。 2.67
Q15 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。 2.71
Q13 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。2.76
Q18 学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。2.88
Q16 「進路学習」「道徳」「高2・3ゼミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。 2.90

これら評価が低い設問下位5つも、昨年度とまったく同じものとなった。いずれもが学習活動に関する内容となっている点で、ここまで行ってきた改善がうまく評価と結びついていないという印象を持つ。たとえば、理数系教育については、プログラミング教室やサイエンス教室などの実施といった取組を続けているが、これらがもたらす影響は限定的なものになっている。また、もともと数学に対する苦手意識を持った生徒が多く存在する本校において、その苦手意識を払しょくする方法は模索し続けなければならない。ただし、中学校の成績を見ると、数学の成績が極端に低いという結果にはなっていない。

進路学習に関連して、とくに高2・高3ゼミナールなどの内容が充実してきているが、これらの成果についても、一人一人の生徒の発表内容などをもっとわかりやすい形で保護者に伝えるなどの工夫が必要だと考えられる。加えて、中学生対象のキャリアガイダンスなども充実させてきているが、生徒一人一人の問題意識の深まりが保護者の皆様に伝わっていないという結果となっているので、より一層の努力が必要だと思われる。なお、英語学習については、今年度、初めて高校3年生終了時においてCEFR B1 レベル取得が70%を超えるという成果を上げているが、こうした成果も、より広報活動を行わないと、アンケートの評価に反映されにくい点が課題として浮き彫りとなった。

3-3) 中学校と高等学校で、評価に差がある設問について (中学で、相対的に評価値が低いもの)

Q10 上位学校 (中学校→高等学校、高等学校→大学) に関する情報提供は適切にされている。 高校 3.57 中学 2.76

Q16「進路学習」「道徳」「高2・3ゼミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。 高校 3.01 中学 2.73

今年度は、全設問の中で0.2ポイント以上の差がついたのは、昨年度の4項目よりも数が減り上記2項目のみとなった。Q10(上位校に関する情報提供)で中高差が開くのは、その濃度が異なっていることに起因するものだが、Q16(進路学習、道徳、ゼミナール)と合わせてこういった差が縮まる方向性について考えていきたい。

3－4）各質問項目について

Q1 特色ある教育活動が行われている。 全体 3.20 高校 3.18 中学 3.21

この設問は、昨年度に引き続き高い評価を得ている。たとえば、行事も含めた本校の特色が理解され、その良さが伝わっていること、ならびにそれらに参加している生徒の様子に積極的に触れていただく機会を多く持てたことが評価に結びついたと考えられる。

Q2 学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。 全体 3.16 高校 3.2 中学 3.11

保護者の皆様には、日頃から、多岐にわたるご支援をいただいております、この設問に高い評価をいただけたのは、ほんとうに嬉しいことである。意見交換会なども含めて、今後も、よりきめ細かな対応ができるようにしていきたいと考えている。

Q3 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。 全体 3.52 高校 3.57 中学 3.46

先にも触れたが、この設問も、昨年度、一昨年度と同様、高い評価が得られた設問の一つである。学年別で見ても高い評価が得られており、生徒が良い友人関係の中で生活していると言える。ただし、生徒間のトラブルがないわけではなく、例年、少数であっても教員の頭を悩ませている大きな問題であり、こうしたトラブルが保健室登校や不登校につながっていくケースもある。数の問題ではなく、すべての生徒が良い友達関係を築いていけるようにしていきたい。ていねいな対応と未然防止に対して、引き続き努力が必要となっている。

Q4 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。 全体 3.48 高校 3.45 中学 3.52

先にも触れたが、保護者の皆様に学校行事に参加していただく機会が多い状況を反映した結果となっている。とくに飛翔祭、文化祭といった行事の場だけでなく、様々な形で行われる生徒のプレゼンテーションは、近年のICT 機器利用のスキル向上と結びついて、その質が高くなっている。こうした表現力の豊かさの成長長に触れていただけるようになっていることも、高い評価と結びついていると考えられる。

Q5 学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。 全体 3.19 高校 3.13 中学 3.24

この設問も昨年度と同様、評価がっており、直接様子を見ていただける機会を有効に使っていただけていることがわかる貴重な結果となった。高校よりも中学の方がやや高い数字となっている点では、アンケート直前に実施された中学のみの行事である合唱コンクールの影響があるのかもしれない。

Q6 学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。 全体 3.33 高校 3.34 中学 3.33

部活動等で成果をあげた生徒の活躍に限らず、課外教室、海の学校、山の学校といった行事の様子、さらに SAIL

プログラムなどについて頻繁にホームページに掲載されるようにしている。また、副校長ブログも日々の学校の様子を伝える上で大切な役割を果たしている。今後、目立たない平凡な日常についても、何等かの形で伝えることにも注力していくことができれば、さらに理解が深まっていくものと考えている。

Q7 お子さんの心身の健康について、気軽に相談できる窓口（養護教諭、カウンセラー等）がある。 全体 3.02 高校 3.02 中学 3.02

心身の健康相談は、基本的に保健室が窓口になることが多いが、こうした相談窓口への誘導は学期末面談など学級担任が担う部分が多い。さらに、生徒本人に限らず保護者の皆様にも広く扉が開かれていることも、学級担任を通じて伝えられているが、この点での理解を深めていければと考えている。ほとんどの生徒が利用することがないものではあるが、様々な悩みは多かれ少なかれ全ての生徒が内包しているものなので、よりよい学校生活の一助となるように考えていきたい。

Q8 感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。 全体 3.09 高校 3.13 中学 3.06

コロナ禍に比べると、感染症対策については、比較的余裕がある状況ではあるが、学校生活の中で生じる様々なケガの件数は例年と大きく変化していない。時代とともに生徒の体力が変化していることもうかがえる。これまでの当たり前について、一つ一つ丁寧に考え直し対応していくことが求められている。とくに今年度は、飛翔祭で行われた各学年の種目の内容について丁寧な検討を行ったが、こうした検討を、より広い場面で行っていく必要もあると考えている。

Q9 お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。 全体 3.60 高校 3.61 中学 3.58

この設問では、積極的という言葉を使って問うているが、行事への取り組みは、事前の準備も含めたものとして、こうした活動について、日頃、家庭でも話題になっていることがうかがえるような結果となっている。行事が単に楽しい場であるだけでなく、創りあげていく過程での多くの体験が一人一人の成長に結びつく大切なものだと思っている。

Q10 上位学校（中学校→高等学校、高等学校→大学）に関する情報提供は適切にされている。 全体 3.21 高校 3.57 中学 2.76

中学生に対するキャリアガイダンスなども、以前に比べて充実させているが、本校の中学生にとって、高校へ進学するという意識はなかなか持たせにくい。例年のことだが、この点が、中学校と高等学校の評価値の差になって現れている。生徒向けのガイダンスでも、高等学校の授業科目や定期テスト、成績評価のしくみに関する説明はあっても、それが中学とどのように異なっているかを説明するのはなかなか難しい。日頃、高校より入学する生徒向けに行っている学校説明会では、本校の高等学校の様々なプログラムが、他校にはない個性を伸ばすためのものであることを強調しているが、これを本校の中学生に伝えていく努力が足りないのかもしれない。

Q11 学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。
全体 2.98 高校 3.03 中学 2.92

機会がある度に、登下校のマナー、スマホの利用の心得などの基本的なモラルについて、繰り返し指導を行っている。安全配慮とも関連するが、たとえば登校指導などもなかなか止めることができない状況が続いている。マナーやモラルを教えるという点では、学校でできることには限界もあり、家庭の力に依るところが大きい、引き続き、何がダメなのか、何のためのルールなのかを考えさせていきたい。そういった点では、生徒会（常任委員会）との連携もより深めていく必要があると考えられる。

Q12 学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。 全体 3.03 高校 3.09 中学 2.96

情報モラルについては、「スマホ誓約書」を中心にルールの徹底を行っている。SNS の利用が生徒の生活から切り離せない状況になっており、再三、「デジタルタトゥー」の話をしなければならない状況が、教員の時間を奪いつけている。大幅なルール違反には、厳しい対応をしなければならないが、一方で、依存症のような状況については、学校のできる範囲には限界がある。デジタルシチズンシップ教育なども重ねてきているが、他者理解につながる小さな失敗すら、昔と違ってできなくなっている現状があり、真正面から取り組まなければならない。

Q13 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。 全体 2.76 高校 2.8 中学 2.71

昨年に続き評価が低い設問である。学ぶ意欲を引き出す一つの方法が「競争」なのかもしれないが、本校では順位をつけるためのテストは行わないという澤柳の精神を大切にしていきたいと考えている。つまり、学ぶことの本当の意味、各教科の面白さや大切さ、また、それぞれの教科で身につけてほしい資質能力を、一人一人の教員がしっかりと自覚していくことが大切だと思う。「おもしろい」と感じられる瞬間の積み重ねが、テストのための授業という誤った考え方を乗り越えるためには不可欠だと思う。

Q14 学校は、日々の教育活動で I C T 機器を積極的に利用し、お子さんはそれらを活用している。 全体 3.01 高校 3.06 中学 2.95

今年度の高 1 からノートパソコンを使用するようになった。学年進行とともに、これがどのように展開していくのかは、今後の課題だが、キーボード操作などもスムーズに行われ、教室で自習している場面などを見てもしっかりと定着している。また、日常的に動画編集などを行うことが当たり前となり、これまでのパワーポイントの活用からさらに深まっているという印象を持っている。授業に限らず、ここ数年で、日常生活に欠かせない道具となっているものだが、一方で利用の負の側面についても、きちんと考えていくことが、積極的な利用の本当の意味なのかもしれない。

Q15 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。 全体 2.71 高校 2.78 中学 2.63

この設問は、比較的低い評価となっているが、それぞれの生徒のそれぞれの教科において、個別の目標を考えていくのは、かなり難しいことだと考えている。たとえば、学級担任は、個別に定期テストの目標設定をしたり、成績評定などについて考えること、さらに、高校3年生では評定平均値や成城大学の推薦基準などといった数字をあげて指導しているが、それでは各教科において身につけてほしい本質を見失ってしまうことにもつながりかねない。あらためて、個々の授業において目標をきちんと考えさせるところがポイントになる。

Q16 「進路学習」「道徳」「高2・3ゼミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。 全体 2.9 高校 3.01 中学 2.73

中学と高校で評価値に差が生じた設問ではあるが、とくに高校2年生が最も高い値になっていることから、ゼミナールへの取り組みがある程度の評価を得ているとも言える。その一方で、中2がもっとも低い値になっていることから、探究的な取り組みについて、とくに道徳や進路学習については、振り返って考える必要がある。

Q17 学校では、「英検」に関して、中3までに準2級、高2までに2級を取得することに向けての学習活動が行われている。 全体 2.93 高校 2.93 中学 2.92

先に書いたが、高校3年生終了時での CEFR B1 レベルが70%を超えるなど、英検等の資格試験に関するこれまでの取り組みは、少しずつではあるが成果をあげている。現在の目標が高2までで2級取得であることを考えると、その点では、まだ達成できていない状況にあるが、地道な取り組みは続いている。来年度、高等学校で導入される GTEC が、どのような効果をもたらすのかについて、ここまでの実績を活かす形で進展し、さらに保護者の皆様からの高い評価がにつながるようにしていきたい。

Q18 学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。 全体 2.88 高校 2.86 中学 2.90

英語4技能に関しても、過去とは異なる様々な取り組みを毎年のように行っている。教科書の変更や、ICT 機器（アプリ）の利用などについても、日々、工夫が重ねられている。こうした取り組みを、保護者の皆様にていねいに伝えるための時間がないのが課題ではあるが、これはなかなか難しい課題となっている。いわゆる英語の学習活動については、家庭の日常会話で話題になりそうなものが日々取り上げられているのだが、それが広がっていかないという印象を持っている。

Q19 学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。 全体 2.67 高校 2.67 中学 2.68

この項目は、例年低い評価となっている。科学的思考力や表現力をつけるための機会は、様々な形で作っているが、全体に広がっていくような状況が生み出しにくい。高2で理数コースを選択する人数は例年1クラス程度であるが、その中の生徒たちが意欲を持って取り組んでいる状況は見られるので、全体を通しての高い評価につながらないことには、難しさを感じる。これまでも言われてきたことだが、数学や理科が暗記科目にならないような工夫について、あらためて考えていきたい。

Q20 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。 全体 3.52 高校 3.5 中学 3.53

学校内の施設・設備については、日々のメンテナンスに加えて、様々な工夫がなされてきている。運動施設に限らず、生徒の日常生活を支える細かな配慮を行ってきている。昨年度と同様、高い評価を得ることができたが、それを支えている人の努力があってこそそのものだと感じている。

Q21 お子さんが部活動に参加している方へ：学校では、クラブ活動が適切に運営されている。(参加されていない場合はわからないとしてください) 全体 3.31 高校 3.28 中学 3.34

部活動に関する設問だが、昨年度とほぼ変わらない比較的高い評価を得られた。部活動運営に関しては、引き続き、教員の働き方改革（労働時間の短縮）と関連づけて進めていかなければならないが、そういった改革の流れの中で安全面が疎かにならないようにしていく必要もあり、量の確保が難しくなっている。一方、質の改善という点でもそれぞれの部が課題は持っている。現状維持を考えていくことが難しい状況の中での、適切な運営について考えていく必要がある。

Q22 本学園の良さを学外の人に伝えたい。 全体 3.27 高校 3.28 中学 3.25

この設問についても昨年度、一昨年度と同様の結果が得られた。学外の人に対する広報活動は、生徒募集の観点からだけでなく、地域との結びつきや学校間の結びつきなども含めてとらえていく必要があると思われる。保護者の皆様に、成城学園中高を、より深く知っていただくことによって、それが学外の人たちに伝わっていくことも併せて目指していきたい。

V まとめ

集計結果を見ると、昨年と大きな変化はないが、やはり、なかなか保護者の皆様には伝わっていない部分が多くあると感じている。多様な教育活動が実施できる環境づくりを大切にしている本校の特性からも、その中で、学習活動という軸がもっと前面に出てくるような工夫は加えていきたい。とくに、4.0 を最高点として、アンケートを実施する中で、評価値が 3.0 以下の設問が 22 設問中 7 つあったことは重く受け止めていきたい。また、全体的な傾向として、中 1 の評価値が比較的高くなっている。この点についての分析は難しいが、学年進行とともにこれが下がらないようにしていければ良いと考えている。

今年度も、全般的には生徒たちが学校で楽しい時間を過ごしていることが伝わってくるような結果となった。その一方で、これをすべての生徒の楽しい時間にしていくための工夫と努力は、常に私たちのための課題でありつづけている。

＜参考＞自由記述欄の要約

○中学校要約

学習支援:

英検取得のための補講や教科別の補講を充実させ、学力が伸び悩んでいる生徒への支援を強化してほしい。また、成績が足りない場合の救済措置（補講・課題・追試）を求める声がある。

学校の情報提供: 行事の情報を学校のホームページで共有し、授業見学の機会を増やしてほしいとの要望がある。

生活指導:

歩きスマホやホームでのふざけ行為、女子生徒のスカート丈、校内でのメイクや動画撮影などの問題について指導を求める意見が多い。

ICT 教育:

ICT 環境の整備不足を指摘し、iPad の管理や活用法の改善を求める意見がある。

部活動:

部活動の日数制限の緩和、外部コーチの活用、大会時の学校全体での応援を求める声がある。

教育方針:

暗記中心の学習から、理解・思考力を重視した教育への転換を希望する意見がある。また、自由と規律のバランスが取れていないと感じる保護者がいる。

生徒の自主性とマナー:

生徒の授業態度やマナーの改善を求め、教員が指導を強化することを期待している。

その他:

父母会の役員選出方法の見直し、学校環境の活用（屋外授業など）、スキー学校の枠拡大、感染症対策の強化などの要望がある。

全体的に、学習・生活指導の改善と、学校と保護者の連携強化を求める意見が多く見られる。

○高校要約

教育・学習面:

グローバル社会に適応できる応用力や議論力を高める教育が不足。

英語教育の習熟度別クラスの導入を希望。特に初心者向けの文法指導を強化すべき。

他大学受験希望者へのサポートが不足。情報提供や対策を強化してほしい。

テスト内容にばらつきがあり、学習意欲を削ぐような難易度の高い問題もある。

実技教科の評価基準を明確にしてほしい。

校則・制服・規律:

制服のポロシャツにグレーを追加してほしい。

男子の制服の自由度を上げるか、私服を認めてほしい。

女子のスカート丈が短すぎるため、適切な長さを明確に決めるべき。

校則に一貫性がなく、先生によって対応が異なる。

学校運営・行事：

学校行事が直前になってバタバタするので、スケジュール管理を徹底してほしい。
文化部の活動が伝わりにくいので、発表の機会を増やしてほしい。
修学旅行のような一般的な学校行事が少ない。

部活動：

顧問の先生が部活動に関与せず、生徒に負担がかかっている。
部活動の費用負担や管理が生徒任せになっており、改善を希望。
部活動の保護者会を開催してほしい。

生活・マナー：

公共の場でのマナー（電車内での騒音など）を徹底指導してほしい。
携帯電話の使用ルールが形骸化しているので、厳しく取り締まるべき。
学校の休みが多すぎる。特に期末試験後に授業がないのは問題。

その他：

生徒の安全対策として、校内への部外者立ち入りを防止してほしい。
学校からの重要なお知らせを WEB で一括配信してほしい。
体育の授業での安全面が不安。補助なしで危険な動きを強制されることがある。
教員の質に差があるため、指導方法を統一してほしい。

全体として、教育の質向上、校則の一貫性、行事や部活動の運営改善、生徒のマナー指導強化 を求める意見が多い。

学校関係者評価委員会 報告

2025年5月23日、2024年度中学校高等学校学校関係者評価委員会を開催した。この会では、評価集計結果ならびに自己評価報告書をもとに、集計結果に関する報告ならびに意見交換を行った。その後、各委員からのご意見を Google Forms 等を利用して集約し、ここにまとめた。集約にあたり、その観点として「評価値が高い項目」「評価値が低い項目」「中学で、相対的に評価値が低い項目」といった観点から、それぞれのご意見を伺い、さらに、全体を通しての「意見・感想」と「今後への提言」をいただいた。

Q1 評価値が高い項目について

	アンケート項目	全体	中1年	中2年	中3年	中学	高1年	高2年	高3年	高校
9	お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。	3.60	3.53	3.58	3.64	3.58	3.64	3.59	3.61	3.61
3	お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。	3.52	3.45	3.49	3.46	3.46	3.59	3.49	3.64	3.57
20	学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	3.52	3.50	3.54	3.56	3.53	3.53	3.55	3.42	3.50
4	学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。	3.48	3.49	3.46	3.62	3.52	3.44	3.47	3.43	3.45
6	学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。	3.33	3.34	3.32	3.32	3.33	3.35	3.41	3.23	3.34

A 先生方のご尽力のおかげで日々安心して子どもを通わせていただいております。学校の理念や柱となる取り組みが評価に反映されている点がとても素晴らしいと感じました。

B 成城学園の特色をよく理解されていることは本当に素晴らしいと思う。正に戦国時代に突入した教育業界において、成城と言ったらこれ、と言う突出した強みを持っている事は価値がある。それを支えて来た教職員の皆様もこの結果を自信にしてほしい。働き方改革と相反するところもあり本当に運営が難しいと思われるが頑張って頂きたい。沢山の大人の目の中で多面的に評価されて育つ子供たちは幸せだと思う。例えば「いじめ」問題は、無いに越した事はないが、人間が人間である限り完全に無くす事は不可能だし、おそらく出現率もどこでも同じ程度であると思われるが、成城学園の環境ではそれすらも白日の下に晒されている。隠されて八方塞がりにならない環境がその後の解決に大きな違いを生むと感じている。一朝一夕ではできない得難い風土である。

C 昨年度と順位が入れ替わってはいますが、5項目が同じように今年度も評価値が高いことには驚きました。でも、成城学園らしいとも感じました。成城生はコミュニケーション能力が高い、とよく言われますが、こういった行事を通して得るものは勉強とはまた違った意味で多くのことを学び取れるものではないかと思います。

これらの5項目は学習面以外の部分で保護者にとっては安心材料なのではないかと思います。

情報提供についてはいつもわかりやすく、そして丁寧な発信をしていただいていることに感謝しております。

D 学校での行事や、友人関係、施設に対して満足しており、学校から保護者に対するウェブを通じてのコミュニケーションも円滑である。

E なし

Q2 評価値が低い項目について

	アンケート項目	全体	中1年	中2年	中3年	中学	高1年	高2年	高3年	高校
19	学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。	2.67	2.98	2.58	2.50	2.68	2.61	2.72	2.67	2.67
15	学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指すような教育活動が行われている。	2.71	3.00	2.48	2.45	2.63	2.73	2.84	2.77	2.78
13	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。	2.76	3.06	2.51	2.59	2.71	2.71	2.86	2.83	2.80
18	学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。	2.88	3.02	2.87	2.83	2.90	2.81	2.96	2.79	2.86
16	「進路学習」「道徳」「高2・3ゼミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。	2.90	2.90	2.56	2.71	2.73	2.92	3.07	3.04	3.01

A 日々授業の工夫をされている先生方のご尽力に感謝しております。子どもたちが主体的に学びに向かえるような仕掛けや関りが増えることで、より効果的な学びが実現するのではないかと期待しております。また英語に関しては各ご家庭の学校への期待もあり、また4技能をバランスよく育てていくには時間もかかると思います。今後も継続して取り組んでいただくことで、子どもたちの力が着実に伸びていくと信じています。実践的な表現活動やオーストラリアスタディツアーなど楽しみながら学べる工夫などに期待しています。

B 親はつい、分かりやすい成果や「何かやっていますよ」と言う目に見える取り組みに安心を見出してしまう傾向があるが、本当の成長を促す教育はパフォーマンス的には地味である事も多い。例えば英語教育でも、「私たちが目指す姿はこれです」と言うものを映像などで可視化すると更に理解を得られるのではないか。受験用ではなくこんな国際人になるための英語教育なんだ、と言うような。

C Q1とは逆に学習面が低い評価であることは残念でもあり、こちらも昨年度と同じ傾向かと思います。ただ、日々先生方が様々な努力をされながら授業をされていることと思いますが、保護者にはその部分が見えていない、届いていないのかもしれませんが、また中学生、高校生ともなると今日の授業がどうだったというようなことは殆ど親には話さないのでは、とも思います。

中学生、高校生で授業参観というののもあまりないかもしれませんが、実際に保護者がどのような授業をしているのかを参観するというのが保護者には一番伝わりやすいのかもしれませんが。

D 学校での教育活動については、保護者がなかなか見たり、聞いたりする機会がないことが、低評価につながっているのかもしれない。行事については、保護者にその充実ぶりが伝わっているようなので、日々の教育活動やその工夫についてもHPやウェブでお知らせを通じて保護者により一層共有することが必要である。

E なし

Q3 中学で相対的に評価値が低い項目について

	アンケート項目	全体	中1年	中2年	中3年	中学	高1年	高2年	高3年	高校
16	「進路学習」「道徳」「高2・3ゼミナール」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。	2.90	2.90	2.56	2.71	2.73	2.92	3.07	3.04	3.01
10	上位学校（中学校→高等学校、高等学校→大学）に関する情報提供は適切にされている。	3.21	3.02	2.52	2.80	2.76	3.59	3.49	3.64	3.57

A 上位校に関する情報提供に感謝いたします。今後さらに具体的でわかりやすい情報発信が進むことで子どもたちや保護者にとって安心感につながると期待しております。

B 実際の進学とは必ずしも一致しないまでも、他大学も一度は視野に入れて考えてみる、と言う方が増えた様を感じる。そこで、高校で受けられる受験的サポートや情報量はどうか気になるのでは無いと思う。

C 中学で相対的に評価値が低いとは思いますが、高校では評価が上がっているので特に気にはならないのでは、と思います。

俗にいう「中2病」という反抗期のようなものも影響しているのでは、とも感じました。

年齢が上がるにつれ、進学だったり、進路をきちんと意識して考えていくので、この評価値の低さは年齢による一時的なもののように思います。

D 16 については、学校での教育活動であり、保護者に見えにくいものであるため、より積極的に広報していくことが必要である。10 については、仕方がない側面もあるように思われる。

E なし

Q4 「全体を通してのご意見・ご感想」「今後への提言」をお書きください。

A 学校評価アンケートを通じて、日頃から子どもたちの成長のためにご尽力いただいている先生方の姿勢に、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。多くの項目において学校の方針や取り組みがしっかりと浸透しており、安心して子どもを通わせることができていることを実感しています。

一方で、一部の項目では保護者の期待との間に小さなギャップが見られる点もありました。これは学校の課題というより、今後さらに対話や情報共有を深めることで解消していけるものと思います。

これからも子どもたちの主体性を育む学びや英語等現代のニーズに即した教育の一層の充実と、保護者と学校がこれまで以上に協力し合い、子どもたちが学びを深められる環境作りをこれからも期待しております。

B 成城学園の生徒には、他校の子どもたちと比べて、圧倒的に、多様性をごく自然に受け入れる力がある。人として素晴らしい強みです。そしてこれには、周りの大人たち（教職員、保護者）の度量の大きさが比例していると日々感じています。受け入れられる環境があるから受け入れる人になれるのでしょう。さらにこれは教育の真髄であると思いますが、日本ではなかなかない環境です。働き方改革を乗り越えてこの環境を維持して欲しいです。（先生方に無理を強いると言う意味ではありません。）時代に即しながらも古き良き環境を維持発展させる知恵と工夫を成城学園なら生み出せると信じています。

C 日々、子どもたちに向き合い、限られた時間の中で精一杯取り組んでくださっている教職員の皆さまにはあらためまして御礼申し上げます。

昨年同様、評価値が低いものに学習に関する項目が入っていることは気にはなりますが、評価値が高い項目はこの学校の個性と思っています。おそらく、他校にはないものかとも思います。

また、現在の大学の進路についても他校に進学する生徒が増えたことは数十年前に比べれば信じられないほどの人数であり、進路指導に関しても先生方の相当な努力があり、学力の向上もあったと思います。

ただ、たまに聞こえてくるのは「試験範囲が終わらない」というのがあり、これは生徒にとっても負担になるので、そこは配慮いただけるとありがたいと思います。

また、このアンケートを生徒にも取ってみるのもよいのではと思います。保護者と子どもでは違う結果になることでまた違う取り組み方がみえてくるかもしれません。生徒全員ではなく、常任委員のお子さんたちなどに試しにやってみることもよいのではと思います。

最後に、学校である以上、評価を付けるうえではどうしてもテストを行い、数字による評価をつけなくてはなりませんが、やはり、成城生の強みはコミュニケーション能力の高さだと感じています。この先の時代がどのような時代になるかはわかりませんが、学力で評価されるだけでなく、人間性として評価される時代になっていけば、この成城学園で学んだことは必ず力になると思います。そして、その人間性を育んでくださるこの環境と教職員の皆さまには感謝しております。

D ①澤柳先生にならない、順位付けのためのテストを行わず、学ぶことそのものの面白さを大切にするという精神を尊重されているとの先生のコメント（p.11）に深く感銘を受けました。一方で、一部の保護者が「学力を身につけられていない」と感じている現状もあるとのこと。この状況を鑑みると、保護者と学校間のコミュニケーションにおいて、「学力」という言葉が持つ多様な意味合いを意識することが重要だと感じました。学校が考える「学力」と保護者が考える「学力」、その両方が生徒にしっかりと身につくような教育が実現できれば、それが最も理想的だと考えます。

②今回の自由記述欄の要約によって、保護者の多様なご意見を具体的に把握することができました。毎年、これらのご意見の中から比較的多く、かつ取り組みやすいものをいくつか選び、保護者の皆様にお伝えしてみたいかがでしょうか。その上で、学校側がそれに対してどのような具体的な取り組みを行い、どのような成果があったかを共有することで、学校への信頼がより一層高まるのではないかと感じました。（すでに取り組んでいらっしゃるようでしたら大変失礼いたしました。）

E 全体的に、昨年とほぼ、同様の結果とのことでした。

これはどの学校にも言えることだとは思いますが、評価の高い項目はそれを維持するとともに、評価の低い項目については、今後その改善点を少しでも明確にして、取り組む必要があると思います。そして、今年度にそれを反映し、実践して、次回の学校評価で少しでも改善が見られれば、この学校評価をしている意味や意義があるのではないかと思います。

学校評価委員会（2025） まとめ

昨年度に引き続き、学校評価委員会での評価アンケートの資料を一昨年、そして昨年と拝見する機会をいただきました。結果を拝見し続け、3年目ということになりますが、一言でいうと3年間で同じ傾向のように思います。

ただ、今年度は今までと評価委員のコメントの変化を感じます。

施設、設備、環境といったハード面、学力といった学習面への評価で分かれてはいますが、今年度は成城学園の強み、らしさといったことへの評価がより一層上がっているのではないかと思います。

コロナ禍を経て、様々な価値観や物事の捉え方が変わり、成城学園らしいものは、成城学園の強みとは…、ということにあらためて向き合い、またその良さを見出し始めている時期なのかもしれません。

一方で、保護者としては子どもの現状を知るためには、学力を判断基準としてしまいます。

先生方の取り組みがどんなに素晴らしいものであっても、当人のやる気や向き合い方がなければ難しいこと、また年齢的な問題など、個人の問題も様々かと思えます。そういった面に関しては授業参観や学校からの情報発信をし、保護者に向けて理解を深めていくことも必要かとも思います。

最後に、昨年度の委員長からのご意見としてもありましたが、生徒にもアンケートを…というのも是非、実現させていただければと思います。生徒全員でなくてもよいのではないかと思います。

あくまで、このアンケートは保護者の学校に対する評価アンケートではありますが、学校という現場にいるのは生徒達です。もしかしたら、生徒達の意見や言葉に大きなヒント、そして私たち大人が考えつかないような「何か」があるのかもしれません。その「何か」を先生方が気づき、引き出し、生徒たちを輝かせていって欲しいと思います。先生と生徒たちの距離の近さ、信頼感があるからこそ、と思います。

この先も変わる事のない成城学園と、新たなことにもチャレンジをしていく成城学園にも期待をしております。

令和6(2024)年度 学校評価アンケート 初等学校自己評価について

■はじめに

2023年度に引き続き、初等学校の教育活動に理解と協力を頂いている保護者を対象に学校評価アンケートを実施させていただきました。保護者アンケートの集計結果を十分に参考にし、本校の教育活動のさらなる向上につなげていきたい。

■学校評価保護者アンケート実施

- ・実施期間：2025年1月14日(火)～1月27日(月)
- ・対象：初等学校全保護者 「初等ネット」にてアンケートを配信
- ・アンケート回収率：71% (395件／558世帯の回答あり)
- ・アンケート項目

1) 下記A～Z、AA,AB,ACの24項目について、回答者が満足度について回答する。

【満足度】①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない

2) 「自由意見結果一覧」(関係者部内秘扱い)

■保護者アンケート集計結果の読み取り

※青字は85%前後の肯定率である。赤字は50%前後の肯定率にとどまっている項目であり、改善が望まれると考える。

★F 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。

行ラベル	個数 / 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	
①とてもそう思う	158	40%
②ややそう思う	173	44%
③あまりそう思わない	44	11%
④そう思わない	12	3%
⑤わからない	8	2%
総計	395	100%

「F 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」という質問に対しては、全体の84%が肯定的な反応をされている。授業に対する保護者の評価は概ね良いと考えられる。

★G お子さんは、学校で良い友達関係を築いている

行ラベル	個数 / お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。	
①とてもそう思う	224	57%
②ややそう思う	135	34%
③あまりそう思わない	23	6%
④そう思わない	10	3%
⑤わからない	3	1%
総計	395	100%

「G お子さんは、学校で良い友達関係を築いている」という質問に対しては、全体の91%が肯定的な反応をしている。多くの保護者がお子さんが初等学校でよい友達関係を築いていると考えている。

★H 学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている

行ラベル	個数 / 学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている。	
①とてもそう思う	299	76%
②ややそう思う	78	20%
③あまりそう思わない	10	3%
④そう思わない	4	1%
⑤わからない	4	1%
総計	395	100%

「H 学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている」という質問に対しては、全体の 96%が肯定的な反応をされている。公開授業や情報公開を通して、子ども達の学校生活の様子が保護者にしっかりと伝わっていることが分かる。

★I 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている

行ラベル	個数 / 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。	
①とてもそう思う	313	79%
②ややそう思う	67	17%
③あまりそう思わない	9	2%
④そう思わない	3	1%
⑤わからない	3	1%
総計	395	100%

「I 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている」という質問に対しては、全体の 96%が肯定的な反応をしている。このことから初等学校の学校行事が子ども達にとって良い発表の場となっていることが分かる。

★J お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる

行ラベル	個数 / お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる。	
①とてもそう思う	166	42%
②ややそう思う	151	38%
③あまりそう思わない	35	9%
④そう思わない	14	4%
⑤わからない	29	7%
総計	395	100%

「J お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる」という質問に対しては、全体の 80%が肯定的な反応をされている。子ども達の心身の健康に関する相談事項に関しては、概ね満足できるレベルに満足度が留まっているので、改善の余地があると考ええる。

★K 感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている

行ラベル	個数 / 感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。	
①とてもそう思う	186	47%
②ややそう思う	150	38%
③あまりそう思わない	43	11%
④そう思わない	7	2%
⑤わからない	9	2%
総計	395	100%

「K 感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている」という質問に対しては、全体の 85%が肯定的な反応を示している。この項目に対する満足度も概ね満足できるレベルに留まっていると考えることができる。

★L 特色ある教育活動が行われている。

行ラベル	個数 / 特色ある教育活動が行われている。	
①とてもそう思う	300	76%
②ややそう思う	84	21%
③あまりそう思わない	7	2%
④そう思わない	1	0%
⑤わからない	3	1%
総計	395	100%

「L 特色ある教育活動が行われている」という質問に対しては、全体の 97%が肯定的な反応をしている。特色ある教育活動に関しては、非常に多くの保護者が満足していることが分かる。

★M 学校は、日々の教育活動で、ICT 機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用した授業を行っている

行ラベル	個数 / 学校は、日々の教育活動で、ICT 機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用した授業を行っている。	
①とてもそう思う	151	38%
②ややそう思う	147	37%
③あまりそう思わない	39	10%
④そう思わない	8	2%
⑤わからない	50	13%
総計	395	100%

「M 学校は、日々の教育活動で、ICT 機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用した授業を行っている」という質問に対しては、全体の 75%が肯定的な反応をしている。ICT 機器の適切な活用については、保護者との情報の共有が必要である。

★N 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。

行ラベル	個数 / 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	
①とてもそう思う	281	71%
②ややそう思う	101	26%
③あまりそう思わない	8	2%
⑤わからない	5	1%
総計	395	100%

「N 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある」という質問に対しては、全体の 97%が肯定的な反応を示している。学校の施設・設備に関しては高い満足度を示している。

★O 本学園の良さを学外の人に伝えたい

行ラベル	個数 / 本学園の良さを学外の人に伝えたい。	
①とてもそう思う	227	57%
②ややそう思う	128	32%
③あまりそう思わない	23	6%
④そう思わない	7	2%
⑤わからない	10	3%
総計	395	100%

「O 本学園の良さを学外の人に伝えたい」という質問に対しては、全体の 89%が肯定的な反応を示している。初等学校の良さを約 9 割の保護者が学外の人に伝えたいと考えている。

★P 学校は、父母の会との連携をとり、保護者の声を教育活動に反映できるよう努めている。

行ラベル	個数 / 学校は、父母の会との連携をとり、保護者の声を教育活動に反映できるよう努めている。	
①とてもそう思う	166	42%
②ややそう思う	162	41%
③あまりそう思わない	28	7%
④そう思わない	10	3%
⑤わからない	29	7%
総計	395	100%

「P 学校は、父母の会との連携をとり、保護者の声を教育活動に反映できるよう努めている。」という質問に対しては、全体の 83%が肯定的な反応をしている。より保護者の声を教育活動に反映できるように、努めていく必要があると考える。

★Q 学校は、「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、児童一人ひとりの個別最適化の教育活動に努めている

行ラベル	個数 / 学校は、「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、児童一人ひとりの個別最適化の教育活動に努めている。	
①とてもそう思う	193	49%
②ややそう思う	126	32%
③あまりそう思わない	43	11%
④そう思わない	23	6%
⑤わからない	10	3%
総計	395	100%

「Q 学校は、「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、児童一人ひとりの個別最適化の教育活動に努めている」という質問に対しては、全体の 81%が肯定的な反応をしている。「個性尊重の教育」の実現に向け、より努力していく必要があると考える。

★R 学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている

行ラベル	個数 / 学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている。	
①とてもそう思う	282	71%
②ややそう思う	99	25%
③あまりそう思わない	11	3%
④そう思わない	2	1%
⑤わからない	1	0%
総計	395	100%

「R 学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている」という質問に対しては、全体の 96%が肯定的な反応をしている。「自然と親しむ教育」の実現に向けた体験活動に関して多くの保護者が満足している。

★S 学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向けて、様々な表現活動や発表活動に努めている

行ラベル	個数 / 学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向けて、様々な表現活動や発表活動に努めている。	
①とてもそう思う	258	65%
②ややそう思う	123	31%
③あまりそう思わない	6	2%
④そう思わない	5	1%
⑤わからない	3	1%
総計	395	100%

「S 学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向けて、様々な表現活動や発表活動に努めている」という質問に対しては、全体の 96%が肯定的な反応をしている。「心情の教育」の希望理想の実現に向けては多くの保護者が満足していることが分かる。

★T 学校は、「科学的研究を基とする教育」の希望理想の実現に向け、教員の研究活動に努めている

行ラベル	個数 / 学校は、「科学的研究を基とする教育」の希望理想の実現に向け、教員の研究活動に努めている。	
①とてもそう思う	200	51%
②ややそう思う	135	34%
③あまりそう思わない	23	6%
④そう思わない	6	2%
⑤わからない	31	8%
総計	395	100%

「T は、「科学的研究を基とする教育」の希望理想の実現に向け、教員の研究活動に努めている」という質問に対しては、全体の 85%が肯定的な反応をしている。研究活動の充実に向け、より研鑽を積む必要があると考える。

★U お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している

行ラベル	個数 / お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している。	
①とてもそう思う	275	70%
②ややそう思う	92	23%
③あまりそう思わない	20	5%
④そう思わない	2	1%
⑤わからない	6	2%
総計	395	100%

「U お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している」という質問に対しては、全体の 93%が肯定的な反応をしている。「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じて子ども達の人間関係が豊かに構築されていると考える保護者が多いことが分かる。

★V お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している

行ラベル	個数 / お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している。	
①とてもそう思う	318	81%
②ややそう思う	64	16%
③あまりそう思わない	7	2%
④そう思わない	5	1%
⑤わからない	1	0%
総計	395	100%

「V お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している」という質問に対しては、全体の 97%が肯定的な反応をしている。この高い反応率から、多くの子ども達が文化祭や運動会、校外学習等の学校行事に積極的に参加していることが分かる。

★W お子さんは、劇や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している

行ラベル	個数 / お子さんは、劇や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している。	
①とてもそう思う	299	76%
②ややそう思う	79	20%
③あまりそう思わない	13	3%
④そう思わない	4	1%
総計	395	100%

「W お子さんは、劇や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している」という質問に対しては、全体の 96%が肯定的な反応をしている。多くの子ども達が、劇や音楽の授業を通じて、劇の会や音楽の会に積極的に参加していることが分かる。

★X 進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている

行ラベル	個数 / 進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている。	
①とてもそう思う	72	18%
②ややそう思う	124	31%
③あまりそう思わない	96	24%
④そう思わない	43	11%
⑤わからない	60	15%
総計	395	100%

「X 進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている」という質問に対しては、全体の 49% が肯定的な反応をしている。新6年生保護者会や5年生保護者の中学校見学等で成城学園中学校高等学校に関する情報を提供はしているが、1年生～4年生の保護者に関しては、特にその機会を設けていないため、改善の余地があると考え。

★Y 学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である

行ラベル	個数 / 学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である。	
①とてもそう思う	228	58%
②ややそう思う	144	36%
③あまりそう思わない	16	4%
④そう思わない	4	1%
⑤わからない	3	1%
総計	395	100%

「Y 学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である」という質問に対しては、全体の 94% が肯定的な反応をされている。「学校からのお知らせ」などの量と内容に関して、保護者が十分に満足していることが分かる。

★Z 英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている

行ラベル	個数 / 英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている。	
①とてもそう思う	70	18%
②ややそう思う	144	36%
③あまりそう思わない	99	25%
④そう思わない	38	10%
⑤わからない	44	11%
総計	395	100%

「Z 英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている」という質問に対しては、全体の 54% が肯定的な反応をしている。英語の授業改善、実際に行われている英語授業の実際についての保護者の理解度を高める努力をしていく必要があると考え。

★AA 数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている

行ラベル	個数 / 数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている。	
①とてもそう思う	126	32%
②ややそう思う	171	43%
③あまりそう思わない	49	12%
④そう思わない	13	3%
⑤わからない	36	9%
総計	395	100%

「AA 数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている」という質問に対しては、全体の 75%が肯定的な反応をしている。説明する力、論理的に考える力を伸ばす教育活動について、より研鑽を積んでいく必要があると考える。

★AB 学校では、安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われている。

行ラベル	個数 / ID	
①とてもそう思う	194	49%
②ややそう思う	158	40%
③あまりそう思わない	33	8%
④そう思わない	6	2%
⑤わからない	4	1%
総計	395	100%

「AB 学校では、安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われている」という質問に対しては、全体の 89%が肯定的な反応を示している。保護者の大多数は、学校で安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われていると考えていると捉えられる。

★AC 学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている

行ラベル	個数 / 学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている。	
①とてもそう思う	284	72%
②ややそう思う	98	25%
③あまりそう思わない	7	2%
④そう思わない	3	1%
⑤わからない	3	1%
総計	395	100%

「AC 学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている」という質問に対しては、全体の 97%が肯定的な反応を示している。校舎内外の環境の整備と美化について、保護者から高い評価を得ていることが分かる。Q1 学校は、父母の会との連携をとり、保護者の声を教育活動に反映できるよう努めている。

■結び

保護者アンケートの集計結果から回答者(保護者)にとって多くの項目が重要度・満足度とともに高かった。一方、回答者(保護者)にとって重要度が高く、満足度が低かったのは、

X 進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている。

Z ★Z英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている。

以上2項目であった。

Xについては、現状、学園中学校高等学校と連携し、毎年5月に初5児童対象の学園中高見学会、毎年5月・11月・1月の3回、初6合同保護者会を開催し、高学年保護者には進学に関する情報提供を適切に行っている。しかし、各学年の進級に関する情報や1年生～4年生保護者への進学に関する情報の提供にあまり重点を置いてこなかった。そのため、保護者の「我が子の先行き」に安心感を持ってもらうためにも、学園内広報のあり方についても再考していく。

また**Z**については、満足度が昨年度に続き、低い評価に終わったことは残念なことである。肯定的反応が全体の54%にとどまっていること同時に、「⑤わからない」を選択している保護者が全体の11%あることから、英語の授業改善、実際に行われている英語授業についての保護者の理解度を高める努力をしていく必要があると考える。

以上

学校関係者評価委員会 報告

成城学園初等学校 学校関係者評価委員会（以下、本委員会）は、令和6年度 成城学園初等学校 学校関係者評価の結果を以下の通り報告いたします。

I 自己評価委員会の評価基準について

初等学校の学校評価アンケートは、回答者が各質問項目に対する答えを5段階で回答することになっている。自己評価委員会は、肯定的評価が89%以上の項目を保護者から高く評価されている項目、75～85%の項目を評価はされているが改善の余地がある項目、それ以下を反省、改善が必要な項目としている。

この自己評価委員会の基準を、本委員会は妥当なものである、と評価する。75～85%の保護者から高評価を受けている項目をも改善の余地ありとするのは、自己に厳しい基準であると考え。また評価の低い項目に対して付されているコメントについても妥当なものであると評価した。

II 保護者アンケートで高評価を得た項目に対する自己評価について

自由記述以外の全24項目のうち、89%以上の肯定的評価を得た項目は、14項目ある。これらに対する自己評価委員会の評価は適切である、と評価する。

Gは、児童が「学校で良い友人関係を築いている」かどうかを問う質問であるが、91%の保護者が肯定的評価をしている。また、U「異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している」か否かを問う質問に対しても高評価を与えられている。良好な人間関係を構築することを児童の時期に経験することは、児童の将来に大きなプラスとなる。初等学校がそのような関係を作れる場所として認識されていることは喜ぶべきことである。

Hは、公開授業・情報公開に関する項目であるが、肯定的な評価が96%と素晴らしい結果となっている。保護者はいつでも授業を見学して良いという初等学校の開放性が保護者の皆様の安心と信頼を生んでいると考える。

I,V,Wの結果からは、児童が学校行事に積極的に参加し、普段の授業で培った力を存分に発揮していることが伺えた。「劇の会」の在り様に対する肯定的評価が96%であることは、初等学校の特色ある教育が保護者の皆様に受け入れられていることを証明していると考え。また、Lの高評価も、初等学校の「ここにしかない」教育の成功を裏付けている。

Nは、学校の施設・設備に関する項目であるが、97%の保護者が肯定的評価を下している。教育のソフト面のみならずハード面も評価されていることがわかる。そのことが、Oの「本学園の良さを学外の人に伝えたい」の高評価につながっているのだろう。初等学校が「物心両面」を兼備していることに心強さを感じた。

R,S は、「自然に親しむ教育」、「心情の教育」に関する項目であるが、両項目とも肯定的な評価が 96%である。昨年同様本学園が最も大切にしている教育が保護者に高く評価されていることは素晴らしい。今後も四綱領を基盤とした教育を堅持していくことが、本学園を選んでくださった保護者の皆様の希望に応えることになると考える。

Y は「初等ネット」と「学校からのお知らせ」に関する項目である。この項目も肯定的な評価が 94%と素晴らしい数字となっている。

AB,AC は学校の安全対策、校舎内外の環境についての項目である。安全対策は、大切なお子様を預かるうえで絶対に欠かせない事項であるが、この項目についても高い評価がなされている。中高や大学と異なり、構内への入口が限定されており、そこがしっかりと守衛によって守られていることが、高評価の要因の一つであろう。

Ⅲ 保護者アンケートで低評価を得た項目に対する自己評価について

ここでの「低評価を得た項目」とは、肯定的評価が 50%前後である項目である。具体的には、X「進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供が適切にされている」、Z「英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている」の 2 項目である。この二項目は、昨年に引き続き低い評価となった。(Z については質問の文言は変更されているが、英語教育に関する項目として昨年同様とした) これらについての自己評価委員会の評価は、概ね適切である。以下、各項目の自己評価委員会の評価に対する本委員会の評価を述べる。

Ⅲ-1

X「進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供が適切にされている」の評価について

自己評価委員会は、「新 6 年生保護者会や 5 年生保護者の中学校見学等で成城学園中学校高等学校に関する情報を提供はしているが、1 年生～4 年生の保護者に関しては、特にその機会を設けていないため、改善の余地がある」としている。

これに対し本委員会は次のように考える。初等学校受験時に、中高の情報も持っている保護者は多い。新 6 年生保護者会等でそのような情報の上書きをすることは勿論必要である。しかし、それらの「公的な」情報だけでは、中高の持っている良さをアピールできないのではないだろうか。初等学校同様、(やり方は勿論異なるが) 中高でも生徒中心の活動を行っている。そのことが、初等学校の保護者の皆様にうまく伝わっていないのではないだろうか。そのことが、この項目の低評価につながっているのだと考える。そこで、その改善策として全校保護者会などの機会を利用して、飛翔祭の P V を流すなどの試みを行うことが有効であると考え。こうすることで、初等学校同様の「子供が主役」の教育環境が中高にも存在することが伝わると考える。

Ⅲ－２

Ｚ「英語の授業を通じて、英語を用いて自分の思いや考えを伝えられるような授業を行っている」の評価について

肯定的評価が 54%という評価に対して、自己評価委員会は「英語の授業改善、実際に行われている英語の授業の実際についての保護者の理解度を高める努力をしていく必要があると考える」という文言を付している。

この評価に対し、本委員会は次のように考える。まず、質問に対する回答のうち「わからない」が 11%を占めている。このことは、自己評価委員会が述べている通り「実際に行われている～保護者の理解度を高める必要がある」ことを示しているだろう。本委員会としては、実際に行われている英語の授業に対する理解度を高める手段として、「(舞踊の授業で行われているような) 授業参観日を設定して、保護者に授業内容が伝わる場や子供たちの発表の場を設けること」を提案する。こうすることによって、「わからない」という回答が減り、保護者の皆様からより建設的な意見が頂けるのではないかと考える。

次に、「授業改善」の部分であるが、ここで一つの資料を提示したい。その資料とは、中学の新入生を対象として、中学校英語科が実施した英語についての関心を問うアンケートの一部である。そのアンケートの質問項目に①「小学校の英語の授業は好きでしたか」②「楽しかったところがありましたか」③「苦手だったことはありますか」の３項目が存在する。このアンケートから初等学校出身の生徒（梅・皐・椿・柳組に所属する 55 名）の結果を抜粋すると結果は次のようになる。

①はい 49.1% いいえ 50.9%

②英語を用いたゲーム、バスケをしたこと、i p a dを使った学習、ネイティブの先生と話せること、他国の文化について調べたこと 等

③英検、スペルを覚えること、文法、英文を読むこと、皆の前で英語で発表をすること 等

この結果から分かるように、「英語を勉強だと感じてしまう」(＝アンケートに書かれた生徒の言葉) 活動が、英語の授業が好きではなかったという意見に繋がっている。

ところで、本委員会では昨年次のような提言を行った。

(英語を好きになる・異文化に関心をもつ・異文化に属する人を尊重する) 態度を養成するためには、①初等学校向きの英語教育を行うこと、②年齢に応じた英語教育を行うことが必要である。①に関しては昨年も記したが劇の会と連動して英語を用いた劇を行ったり、音楽の会で英語の歌を歌ったりするなどの教育が考えられる。また、つながりの時間、映像、散歩などの初等学校ならではの活動に英語を取り入れることで、初等学校の児童は楽しく英語を学ぶことができるのではないだろうか。②に関しては、大半の児童が興味を示せないよ

うな英文法の授業をするのではなく、ゲームや異文化を知ることができる本や絵本の多読などを通じて、英語の楽しさを体感させるような教育を行うべきである。

昨年度示したこの提言は、今年度も生きていると考える。これに付け加えて、中高の生徒がSAILの活動の一環として、あるいはボランティアとして児童に英語を教えるという試みを行ってみては如何だろうか。そうすることで、中高がどのような教育をし、どのような生徒を育てているかも自ずとわかるので、本項目のみならずX項目の評価も向上すると考えられる。是非、ご検討いただきたい。

IV おわりに

昨年度、アンケートそのものに対する次のような意見を述べた。

保護者はすべての質問の重要度と満足度を、それぞれ4段階で答えることになっているが、項目によっては4段階で評価することが難しかった。たとえば評価の材料がなく答えられない質問については「わからない」という選択肢があると、「いい加減な」回答をしないで済むだろう。また「どちらでもない」という中立の選択肢も用意すべきではないだろうか。

今回、この意見が反映されたアンケートとなっていたことは、初等学校の学校評価に対する誠実な姿勢を示すものだと考える。今回本委員会が提言した内容も同様にご検討いただけると幸いである。

令和 6（2024）年度 学校評価アンケート 幼稚園 自己評価について

○はじめに

- ▶2024 年度はほとんどすべての活動をコロナ禍以前の状態に戻しておこなうことができた。宿泊行事も伊勢原で実施することができ、またここ数年は澤柳記念講堂を使っておこなってきたクリスマス会や卒園式も幼稚園内で実施することで元の状態に戻しつつ、より改善した形を目指して工夫をしてきた。幼稚園の活動は時代の変化に注目しつつも、それに振り回されるのではなく幼児が身につけるべき普遍的な能力の開発と個々の園児の成長を目標とし、有効なプログラムを丁寧に確実に実施していくことが肝要である。そういう点では、成城幼稚園のこの 1 年間の教育は十分な成果をあげてきたと自負している。
- 今年度より初中高と相談の上、アンケートの回答選択肢に⑤として「わからない」を追加した。

○学校目標（第三次中期計画）

Ⅰ. 教育活動

（A）国際教育

（a）語学教育

- 1) 外国人に対し物怖じせず、コミュニケーションを図りたいという意欲を育てる。
- 2) 英語の音、響き等に対する感覚を身につけ、実践しようとする。
- 3) 学園英語一貫教育の入口として、初等学校以降へのスムーズな接続を図る。

（b）国際交流

- 1) 世界を知る第一歩として、まず日本の文化を体験し、理解させる。
- 2) 英語を通して他国の存在を知るとともに、その文化への興味・関心を持ち、理解を深める。
- 3) 英語以外にも多くの言語が世界に存在することを知るとともに、英語圏以外の文化への興味・関心を持ち、理解を深める。

（B）理数系教育

（a）論理的思考力

- 1) 自分の主張を伝える力をつける。
- 2) 相手の考えを聴く力を養う。
- 3) 解決策を考える力を育てる。
- 4) 計画的に物事に取り組む力を育てる。

（b）デジタルスキル

- 1) ICT の楽しさを体感させる。
- 2) 子どもたちの興味関心、理解促進のために、日々の活動にデジタル技術を取り入れる。
- 3) 情報を整理、分析したり、判断する力を育てる。
- 4) ICT 機器を扱う際の適切な使い方（態度やマナー、モラル）を身につけさせる。

（c）科学教育・環境教育

- 1) 自然への関心を育てる。

2) 植物の生長への興味・関心を育てる。

3) 自然科学への興味・関心を育てる。

(C) 情操・教養教育

1) 子どもたちの想像力を育て、人の気持ちへの理解を深める。

2) 友達と一緒に協力して行うことの楽しさを知り、その感覚を養う。

3) 芸術に対する感受性を育て、さらにその能力を伸ばし、創造力や表現力等の感性を磨く。

(D) 学校独自の分野

1) 恵まれた自然環境の中で、自然に触れ、五感を使って感性を磨き、実体験を増やす。

2) クラス学年を超えた集団生活を通して人とのつながり、共に生活することの意味を学ぶ。

3) 英語、美術、体操の三分野の能力のさらなる向上を図る。

II. 研究活動

1) 幼児教育についての研究成果に基づいた保育の研究・実践を目指す。

2) 新教育要領に対応した成城カリキュラムの改善。

3) ポストコロナの新しい幼児教育のあり方を考える研究プロジェクトの立ち上げ。

III. 社会連携活動

成城地域の人の協力を得ながら、地域社会が行っていることへの、子どもたちの理解を深める。

○学校評価アンケート

I. 実施期間：2025 年 1 月 28 日～2 月 7 日

II. 対象：幼稚園 全保護者 「幼稚園ネット」にて配信

III. アンケート項目

下記 Q1～Q23 について、調査対象者が①～⑤を選択して回答する。

① とてもそう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ 思わない ⑤ わからない

Q1 学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。

Q2 お子さんは、園内でよい友人関係を築いている。

Q3 登園・降園時や行事などを通して園での生活の様子が分かるようにしている。

Q4 行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場となっている。

Q5 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。

Q6 感染症対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。

Q7 特色ある教育活動が行われている。

Q8 ICT 機器などを使って、デジタルシチズンシップを養う教育がおこなわれている。

Q9 施設・設備は学習面・安全面において満足できる環境にある。

Q10 本園の良さを学外の人に伝えたい。

Q11 英語に親しみ国際感覚を養う教育が行われている。

Q12 筋道立てて考える力を養う教育が行われている。

Q13 自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。

Q14 情操・教養を伸ばす教育が行われている。

Q15 様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。

- Q16 伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。
- Q17 丁寧な子どもの観察が行われている。
- Q18 子どもたちについての情報が十分共有されている。
- Q19 一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。
- Q20 人間関係を大切にした教育が行われている。
- Q21 自分自身でマナーの向上に取り組んだ。
- Q22 保護者全体のマナーが向上した。
- Q23 保護者全体のマナー向上に向けて、幼稚園は努めている。

Ⅳ. 集計結果より

1) 回答数（分母は在籍園児数）

年少 39／40	年中 32／39	年長 33／39	合計 104／118
----------	----------	----------	------------

2) 回答結果（枠内の数値は、小数点以下を四捨五入したパーセンテージ（％）数値。）

①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④思わない ⑤わからない

Q	質 問 項 目	①	②	③	④	⑤
1	学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。	83	17	0	0	0
2	お子さんは、園内でよい友人関係を築いている。	65	28	4	3	0
3	登園・降園時や行事などを通して園での生活の様子が分かるようにしている。	67	28	5	0	0
4	行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場となっている。	83	14	2	1	0
5	お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。	66	17	12	0	5
6	感染症対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。	75	15	7	0	3
7	特色ある教育活動が行われている。	73	25	1	1	0
8	ICT 機器などを使って、デジタルシチズンシップを養う教育がおこなわれている。	19	34	23	7	17
9	施設・設備は学習面・安全面において満足できる環境にある。	83	17	0	0	0
10	本園の良さを学外の人に伝えたい。	75	20	2	2	1
11	英語に親しみ国際感覚を養う教育が行われている。	61	36	4	0	0
12	筋道立てて考える力を養う教育が行われている。	52	38	4	2	5
13	自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。	90	10	0	0	0
14	情操・教養を伸ばす教育が行われている。	73	25	2	0	0
15	様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。	86	13	1	0	0
16	伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。	95	5	0	0	0
17	丁寧な子どもの観察が行われている。	83	13	3	1	0
18	子どもたちについての情報が十分共有されている。	64	29	4	1	2
19	一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。	79	14	5	0	2

20	人間関係を大切にした教育が行われている。	80	17	1	1	1
21	自分自身でマナーの向上に取り組んだ。	49	46	4	1	0
22	保護者全体のマナーが向上した。	22	38	18	14	8
23	保護者全体のマナー向上に向けて、幼稚園は努めている。	56	30	12	3	0

3) 各質問項目について

Q1 学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。

①だけで83%、①②合わせて100%という高評価であった。日々の自由遊びでも園児本人が何をしたいのか、どうしたいのかを大切にしている。そういう成城幼稚園の方向性を支持していただいたことは大変ありがたい。

Q2 お子さんは、園内でよい友人関係を築いている。

① ②合わせて93%と高評価ではあったが、少数ながら③④との回答もあった。園児どうしの人間関係は日々変化しているので、その時々で受ける印象は違っているだろう。衝突することが一概に悪い関係とも言えないので、その都度良い方向に向かうように指導することを心掛けている。

Q3 登園・降園時や行事などを通して園での生活の様子が分かるようにしている。

①②合わせて95%と高評価であったが、5%の保護者が③との回答だった。降園時に担任から保護者に毎日状況をお話することで、園での生活は概ね伝わっていると思う。ただ、担任が取捨選択して伝えた情報以外のことを周りから聞いたりしたときに違和感を持つ方がいる可能性はあるので、その点については園側の意図をより積極的に広めていきたい。

Q4 行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場となっている。

①だけで83%、①②合わせて97%と高評価だった。歌・スキップ・ダンス・劇など様々な活動を、折々の行事の中で発表できるようにしている。また今年度は父母の力を得て「漫才教室」「ドラム教室」なども開催でき、園児たちが表現活動をより活発に行うことができた。

Q5 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。

①②合わせて83%と決して悪い評価ではないのだが、③が12%ということで、課題の残る項目である。担任をはじめとする教員に気軽に相談ができないのだとするのもったいないことである。相談したことによって偏見を持たれるのではないかと危惧されるのであれば、それは杞憂であると申し上げたい。またカウンセラーとも相談できることをさらに周知していく必要があるだろう。

Q6 感染症対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。

①②合わせて90%の評価をいただいた。コロナ禍以来、健康面には十分注意を払って活動しているが、幼稚園は集団教育の場であるから、どうしても人から人への感染を100%封じることが不可能である。ただ、今年度はインフルエンザで1クラスが1度だけ学級閉鎖になっただけで、感染が蔓延するようなことがなく過ごせたので、この状況を続けていけるよう努力したい。衛生面ではホールの床を抗菌にしたりと取り組みを強めている。

Q7 特色ある教育活動が行われている。

①②合わせて98%と高評価だった。長い伝統の中で作られた独特の教育が評価されたと思われる。しかし質問自体が漠然としているとも言えるので、園に対して良い印象を持ていただいているという意味での評価だとも言えそうだ。

Q8 ICT 機器などを使って、デジタルシチズンシップを養う教育がおこなわれている。

予想通り①～⑤まで分散した結果となった。園としては幼児にパソコンやスマートフォンを使いこなしてほしいと思っているわけではもちろんない。ただ家庭ではスマートフォンやタブレットに園児が触れることは実際に多い。やがて小中学生時代に直面するであろう危機を回避するための基礎づくりである。そのことをきちんと周知していくべきだろう。

Q9 施設・設備は学習面・安全面において満足できる環境にある。

①だけで83%、①②合わせて100%という高評価だった。光をふんだんに取り入れられる園舎と、豊かな自然あふれる広い園庭とが評価されたのだろう。

Q10 本園の良さを学外の人に伝えたい。

①②合わせて95%の高評価であった。成城幼稚園を良いと感じてくださることと、他者にそれを伝えたいと思うこととは大きな差があるだろう。少子化の時代に安定して受験生を獲得していくには口コミは重要な鍵となる。現保護者がこのように感じていてくださることに励まされる。

Q11 英語に親しみ国際感覚を養う教育が行われている。

①②合わせて97%の高評価であった。幼稚園でネイティブの教員を配置している園は少ない。しかも英語の授業だけでなく通常の保育に日本人教員と同じように関わることで生活の中での英語を園児たちは体験することができている。英語一貫教育を推進してきた成城学園ならではの成果だと思う。

Q12 筋道立てて考える力を養う教育が行われている。

①②合わせて90%の評価をいただいているが、③④⑤の回答も散見されて今後の課題となる分野である。幼稚園の中には足し算や引き算などの算数を取り入れた教育を行っているところもあるので、そういう園との比較で、理数分野に消極的と思われがちなのではないかと考えられる。実際は自由遊びの中で論理的思考が鍛えられる場面が多く取り入れられている。例えば、ホールにソフトな積み木があるが、これを使い終わって片付けるときにはパズルのように試行錯誤しないともののボックスに収まらない。そういう経験の積み重ねが重要なのだが、外からは分かりにくいことは確かなので工夫が必要だろう。

Q13 自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。

①だけで90%、①②合わせて100%の高評価であった。園庭の素晴らしさは成城幼稚園の自慢のひとつである。駅から近い立地でこれだけ自然の豊かな園庭を擁していることは大きなアドバンテージである。そしてその中で行われる自然観察こそが理数教育の基礎中の基礎である。

Q14 情操・教養を伸ばす教育が行われている。

①②合わせて98%の高評価であった。Q4で触れたように園児自身が発表する機会を多く設けていること、「キャスパー」「ロバの音楽座」などプロの劇や音楽を鑑賞する会を実施していること、さらには保護者による「職業体験講座」など、多彩な取り組みによって感性を刺激する一年となっている。

Q15 様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。

①②合わせて99%の高評価であった。Q14で触れたように芸術的な側面はもちろんだが、他にも卒園生の畑にお邪魔して「さつま芋掘り」を行ったり、大学の民俗学研究所の協力を得て「全国のこけしの展示」を見学したりと、画面を見てのヴァーチャルな知識ではなく、実際に生のものを体験することを大切にしていることが高評価につながったと考えられる。

Q16 伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。

①だけで95%、①②合わせて100%と、最も高評価な項目であった。お節句・七夕・焼き芋・クリスマス会・ひな祭りなど一年を通して季節の行事を丁寧に行うことで伝統文化を味わえる機会を設けている。

Q17 丁寧な子どもの観察が行われている。

①②合わせて96%と高評価ではあったが、少数であっても③④の回答があったということは残念である。自由記述欄に「子どもどうして衝突があったのに、どちらの保護者にも話がなかった。伝えるべき」という趣旨の記述があったが、そういう思いと連動しているのかもしれない。ただ、子どもたちの衝突はもちろん把握しているのだが、子どもたちどうして上手に解決したことについてはあえて保護者にお伝えしないこともある。これは伝えることで保護者が子どもにそのことを問いただし、悲しい思いを再体験することがあり、それを避けるためである。また「子どもたちの無意識の会話が人を傷つけることがありそれを細かく見てほしい」という趣旨の回答も自由記述欄にあった。子どもたちの会話すべてを聞くことは物理的に不可能だが、辛い思いをしている園児を見逃さないという点は十分に注意していくよう努めたい。

Q18 子どもたちについての情報が十分共有されている。

①②合わせて93%の高評価であったが、少数であっても③④⑤の回答もあり今後の課題であろう。情報の共有については、教員間の共有・教員と保護者との共有という2種類が考えられる。前者についてはQ17にある園児たちの行動についての丁寧な観察だけでなく「子どもの様子」という会合を職員会議とは別に定期的に設け、教員間の情報共有に努めている。後者についてはQ3で触れたように降園時の担任からの話の中で伝えられるよう努めている。

Q19 一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。

①②合わせて93%と高評価ではあったが、③が5%もいることは大変残念であった。この項目は学園が大切にしてきた「個性尊重」ということを問う設問であり、それに対して不十分であると感じる方が数人とはいえないことは大いに反省すべきところであろう。自由記述欄ではそのことが読み取れる回答はなかったが、園児たちの個性に応じた教育を行えるよう心がけていきたい。

Q20 人間関係を大切にした教育が行われている。

①②合わせて97%と高評価であった。幼稚園における人間関係は、園児と園児・園児と教職員・保護者と教職員・保護者と保護者など様々あるが、園児どうしの友人関係についてはQ2で回答していただいている。さらには人間関係には個と個・個と集団・集団と集団などの観点もある。やや漠然とした問いだったかもしれない。③④が1%ずついることも看過できない。

Q21 自分自身でマナーの向上に取り組んだ。

Q22 保護者全体のマナーが向上した。

Q23 保護者全体のマナー向上に向けて、幼稚園は努めている。

保護者のマナーについての3項目である。Q21がご自身、Q23が園、Q22が結論ということになるが、幼稚園の活動に対する評価アンケートであることを考えると、質問はQ23だけで良かったのかもしれない。自由記述欄にはこの項目の回答が最も多かった。また口頭でのご連絡も頂戴することがある。「電車や飲食店で園児が騒いでいるのに注意をしない」「園横の路上に長時間駐車している」「お迎えの時に上履きを持ってこず、園のスリッパを使っている人がる」など多岐に渡っている。園としてはその都度お知らせをして改善をお願いしてきた。大人が子どもたちの良い見本となるよう、保護者と園とで協力していきたい。

☒☒

園の教育活動について一定の支持をいただいているということを読みとれるアンケート結果であったと安心している。ただ、少数とはいえ成城学園が大切にしてきた分野で不満をお持ちの方がいらっしゃることにについては、改善の努力をしていく必要がある。また自由記述欄からは、周知の不徹底や事実誤認が読み取れる内容もあり、この点での改善も重要である。毎日の送迎の際に保護者と教員とが話をする機会があるので、互いの意思疎通は取りやすい状況ではあるが、園の行っている教育活動のひとつひとつの意義や狙いを保護者に理解していただくまでには至っていない分野があるようだ。次年度以降への教訓としていきたい。

学校関係者評価委員会 報告

(2024 年度学校評価アンケート 幼稚園の自己評価説明を受けて)

アンケート結果および、自己評価委員会の報告を受けて、「学校関係者評価委員会」を開催した。昨年度アンケートの項目を 31 から 23 に絞ったが、項目数は変えずに、いくつかの質問でより分かりやすい文言に変更している。また、初中高とあわせて、回答の選択肢に「⑤わからない」を追加した。これらのことによって、以前よりアンケートの正確さは高まったと言ってよさそうである。評価については、ほとんどの項目で満足していることを伺わせる回答が多く、成城幼稚園が園児のことを第一に考え、園児たちの成長にとって有効かつ幅広い活動をおこなっていることは十分に確認されたと考えられる。自己評価委員会のまとめにもあるように、ほとんどの活動をコロナ以前の状態に戻すことができ、よりスムーズな形で教育を行うことができたと捉えている。

当委員会では自己評価委員会のまとめをもとに以下の項目ごとに幼稚園での活動の成果を話し合った。文中の（ ）内は関連するアンケートの質問番号である。

【英語教育・国際教育について】

成城学園全体として、英語教育に力を入れていることが幼稚園でも実践されていると思われる。特にネイティブ教員が一般の日本人教員と同様に保育全般にかかわっていることは他の園ではあまり聞かない特筆すべき環境である。(Q 11)

また国際教育の基礎となるのは国際人として自国の文化をきちんと身につけていることであるが、一年を通して日本文化に触れる行事が充実していることも重要である。(Q 16)

アフタースクールも含めて、英語に触れる時間がかなりあり、園児の音声的な発達の時期と合致して有意義な活動となっている。

【情操教育・教養教育について】

鑑賞するという点では、音楽・演劇などプロの方々がおこなう公演を年に数回実施し、園児も集中して観ており、十分な機会が与えられていると思われる。(Q 14・15)

発表するという点では、さまざまな行事で合唱が常に行われているだけでなく、ひな祭りなどでの劇のように自己表現をする機会が多く設けられている。専門家の指導による造形の時間の活動も特筆に値する。(Q 4)

また「お店屋さんごっこ」のように社会の仕組みに触れるような活動も本格的な形で進められていることも園児たちの成長を促す要因になっている。人と人とのつながりを大切に、集団の中で成長していくことが大切にされていると思われる。(Q 2・20)

【理数系教育について】

理数分野で幼稚園児にとって特に重要なのは観察力を養うことであろう。自然豊かな園庭での遊びの時間はこの力を伸ばすのに最適な環境で行われている。四季によって変化していく自然を全身で感じ、動植物の様子を丹念に観察する姿は園児たちの自然への興味関心の高さを物語っている。(Q13)

行事などのさまざまな場面で数を数える機会を持ち、数字への関心を高めている。ただし、他の分野と比較して、もうひとつ評価が高くないのは、足し算など他の園で実施しているような活動をしていないことも原因であろう。やらない理由など保護者の理解を得られるようなアナウンスが必要であろう。(Q12)

【保護者のマナーについて】

例年あまり評価が高くない項目であり、また自由記述欄に最も多くのコメントが寄せられる項目でもある。送迎などで日々顔を合わせるため保護者どうしで、どうしてもお互いに気になってしまうことがあるのだろう。コロナ禍以前は父母の会の役員が幼稚園の規則などを周知させるのに協力していたようだが、コロナで中断してからは保護者どうしでチェックするようなことをしない方が良いとの意見もあり、かつての決まりごとがあいまいになっている部分もある。園にはわかりやすいアナウンスを期待する。(Q21・22・23)

また、自己評価委員会の文章にもあるように、アンケートは園の側の活動を問うのが目的だとすると、保護者自身が努力したかどうかの質問は不要かもしれない。ただ園児に接する大人の見本としては教員も保護者も同様であるので、保護者への働きかけは続けるべきであろう。

全体としては、成城幼稚園の活動に対して保護者は十分理解し満足していると考えて良いだろう。これから大筋では今までの方向を維持すると同時に、細かい点での手直しを続けていってほしい。園児たちの成長の場としていっそうの努力をお願いする。

以上